

# 矢作川流域圏懇談会「第9回勉強会（三河湾の課題と対策）」開催報告

## 1. 実施概要

### (1)実施概要

○実施日時：平成24年12月11日(火)  
15:00～17:00

○開催場所：西尾市文化会館

○参加者：26名（事務局含む）

### (2)内容

#### 【プログラム】

1. 開会
2. 講演

(1)技術市民から見た海の課題と対策技術案  
伊勢三河湾流域ネットワーク 井上

(2)三河湾の夏期における魚介類資源の現状  
愛知県水産試験場 蒲原

(3)三河湾における環境問題とその対応  
名城大学特任教授 鈴木

## 2. 開催報告

矢作川流域圏懇談会市民会議では、1つの流域としてつながりのある山、川、海という3つの各ブロックで勉強会を進めています。

三河湾全体を通じた海の問題は、個々の問題や個々の対策について把握されつつも総合的か観点から何から取り組めば良いかを理解するのが難しいといった状況にありました。そこで、技術市民、学識のそれぞれの立場から、干潟再生の重要性、生物の過去からの変化や航路、泊地と生息域の関係等の問題についてご講演頂きました。

また、講演後には意見交換を行い、個々の問題のつながりを意識しながら三河湾の課題について情報共有を進め、参加者各人は知識を深めることができました。



青木座長開会挨拶



勉強会の様子

## (1) 開会

### ●青木海地域部会座長より開会挨拶

## (2) 三河湾の課題と対策について

### 1)技術市民から見た海の課題と対策技術案（伊勢三河湾流域ネットワーク 井上氏）

- ・ 矢作川流域圏の海地域を豊かなものとするためには、つながる三河湾全体の再生を考える必要があるという観点でご講演頂きました。
- ・ 特に航路、泊地のデッドゾーン（貧酸素水塊）の問題への対応が重要であること。
- ・ 干潟を再生するだけでなく、エサの供給として関係の深い、珪藻、そして珪藻に必須の栄養素であるケイ酸を以下に供給していくことを考える段階にあるということなどのご説明や提案を頂きました。



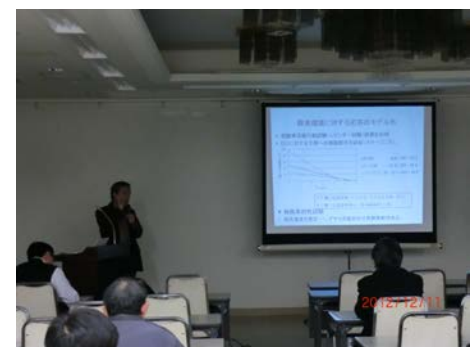
### 2) 三河湾の夏期における魚介類資源の現状（愛知県水産試験場 蒲原研究員）

- ・ アマモ場の分布状況の変化や貧酸素水塊と生物生息域の関係などについてご講演頂きました。
- ・ 1986年と2012年の調査結果を比較して、共通事項として佐久島から一色沖に底生魚介類の分布が多いこと、渥美湾奥に底生魚介類の分布がないこと、変化した事項としては、ガザミが干潟の縁で多く採れるようになったことを紹介されました。
- ・ 沿岸近くのアマモ場と伊勢三河湾口などの岩礁性藻場での魚が繋がっていること、海で採れるヨシエビが矢作川河口で保育期を過ごすなど、河口部、干潟とのつながりの重要性を示すデータを報告して頂きました。



### 3) 三河湾における環境問題とその対応（名城大学 鈴木特任教授）

- ・ アサリの稚貝の貧酸素水塊の耐性がこれまでよく分かっていなかったが、アサリの幼生が漂流中に貧酸素水塊に出会い2～3割が沈下死亡するという損失があるシミュレーション結果を報告して頂きました。
- ・ また、別のシミュレーション結果として、六条潟の稚貝は漂流域が狭くリスクが高いが、矢作川河口部は三河湾全体から集まってくる特徴があること。
- ・ 窒素、リンはS40年代レベルに低減しているが、COD、貧酸素水塊は増加していること。赤潮発生と干潟喪失の相関が強いことなどをご紹介頂きました。
- ・ 干潟造成が生産向上にも寄与していることを理解してもらいたい。そして、再生に適したダム砂の問題をどうするかを山、川と一緒に議論していきたいと意見を頂きました。



以上